

読書運動プロジェクト

活動報告書

Reading Project
本のこと
語り出したら
止まらない

フェリス女学院大学附属図書館
045-812-6999 フェリス 読プロ

平和をつくりだすために

読プロメンバー募集中！

●読書運動プロジェクトとは？

本はおもしろい！背で読めばもっと楽しい！をモットーに、本になじみのない人には読書の楽しさを、本好きな人にはもっと深い楽しみを味わってもらおうという活動です。

●メンバー

学生・先生・職員・大学全体で取り組んでいます。

●活動内容

- ・おススメ本を図書館に展示
- ・今読んでいる本を持ち寄り読書会
- ・読書チームに入って学内外で発表！
- ・創作、POP、いろいろなコンクールで作品発表
- ・図書館に置く本を選んで購入

※興味ある活動に気軽に参加してみてください！

若い私たちがこれからの未来を幸せに生きていくために、できることは何だろうか？
戦後70年を経て、今あらためて平和について考える機会が増えています。小説、ノンフィクション、絵本…今年の読プロはさまざまな角度から「平和」を取りあげます。

平和を考える。

読書運動
プロジェクト 2016

◆ 目次 ◆

目次	
活動資料	
はじめに-----	1
読書会-----	2
データ	
第1回 「私のオススメ本」	
第2回 「最近読んだおすすめの本」	
コンテスト・コンクール-----	4
データ	
POP コンテスト	
創作コンクール	
展示-----	6
データ	
展示	
コラボランチ-----	10
選書ツアー-----	11
文学散歩（葉祥明美術館・鎌倉文学館）-----	12
大学祭-----	13
展示 年間テーマ・読プロ活動紹介	
ワークショップ「My しおりを作っちゃおう！」	
読み聞かせレッスン-----	16
小学校朗読会-----	17
朗読会-----	19
データ	
第1回 大学祭朗読会	
第2回 文学館朗読会	
プロフィール-----	23
学生メンバー	
朗読チーム	
読プロキャラクター “リプロ”	
おわりに-----	30

■ イベント

イベント名	開催日	開催場所	内容
年間テーマ「平和を考える—平和をつくりだすために—」	4月1日(金)～3月31日(金)	附属図書館本館 展示コーナー (緑園キャンパス)	年間テーマ関連の資料70点を展示(うち聖書関連資料5点)
読書運動PR	4月2日(土)	緑園キャンパス体育館	新入生学内オリエンテーション参加 活動紹介、展示、メンバー募集
第1回読書会	5月12日(木)	附属図書館本館 読プロミーティング ルーム (緑園キャンパス)	【テーマ】 私のオススメ本 【紹介された本】 『レインツリーの国』 有川浩著 『風の中のマリア』 百田尚樹著 『鬼が笑う』 小松エメル著 『強運の持ち主』 瀬尾まいこ著
読み聞かせレッスン(前期)	5月13日、20日、27日 6月3日、17日、24日 7月1日、8日 全て金曜日	附属図書館本館 グループ学習室② (緑園キャンパス)	読み聞かせに適した絵本の選び方から、手遊び歌・わらべ歌、読み聞かせの実践までを専門家に学ぶ。 【講師】 菊地彰子先生(読み聞かせ指導者) 藤本朝巳先生(本学文学部教授・図書館長)
POPコンテスト 作品展示	6月15日(水)～10月31日(月)	附属図書館本館 展示コーナー (緑園キャンパス)	POPコンテストに応募された23作品および図書の展示
フェリス★トライやる week	6月23日(木)	緑園7号館教室 (緑園キャンパス)	1年生に向けたイベント ・マイ・しおりを作っちゃおう!
We are the World ～平和を願うプレート	7月11日(月)～15日(金)	学生食堂 (緑園キャンパス)	読プロとFLC(フェリス・ランチ・コミッティー)による学生食堂メニューの企画 【実施メニュー】 「平和を考える」にちなんで世界各国の料理を味わえるプレート。 ①生春巻き・・・ベトナム(アジア) ②トルティージャ(スペイン風オムレツ)・・・スペイン(ヨーロッパ) ③チキン・トマト煮・・・アフリカ ④ヨーグルトサラダ・・・ニュージーランド(オセアニア) ⑤アロスコンボヨ(鶏の炊き込みご飯)・・・パナマ(南アメリカ) ⑥ココナッツムース、ブルーベリーソースかけ・・・ナウル(オセアニア)
文学散歩	8月3日(水)	鎌倉散策	鎌倉文学館「たかどのほうこ展」を見学 葉祥明美術館を見学
選書ツアー	8月29日(月)	丸善 丸の内本店	「今フェリス生が読みたい本」をコンセプトに学生メンバーが95点を選書
読み聞かせ実習(前期)	9月7日(水) 9月14日(水) 9月21日(水)	緑園東小学校	読み聞かせレッスンの成果を、近隣小学校の朝読書の時間で披露する。

イベント名	開催日	開催場所	内容
小学校朗読披露	9月15日(木)	緑園東小学校	近隣の小学校で小学生に朗読を披露 【朗読】: 読書運動プロジェクト朗読チーム、朗読チームOG「すずの音」 坂本紫緒里・阿部果鈴・鈴木珠友・阿部美彩・山田優香・小野紘子・平山真由子・神田玲奈・穂積優香(本学学生) 瀬戸ロ文嘉・出井奏・中島友紀・中村容子・水井真奈美(OG朗読グループ「すずの音」) 【演目】 「サリーさんの手」安房直子 「しあわせってなあに？」葉祥明 「よだかの星」宮沢賢治 【演出・指導】鈴木千秋先生(本学朗読講師)
「選書ツアーに行ってきました！～今フェリス生が一番読みたい本」展示	9月21日(水)～12月22日(木)	附属図書館本館 特設展示コーナー (緑園キャンパス)	8月に行った選書ツアーで購入した図書95点の展示
読プロ活動紹介 「私たちの活動を紹介します」展示	11月5日(土)～11月18日(金)	附属図書館本館 特設展示コーナー (緑園キャンパス)	過去の活動報告書、創作コンクール作品集、大学祭ワークショップのブックカバーの見本を展示
展示	11月5日(土)～11月6日(日)	附属図書館本館 エントランスホール (緑園キャンパス)	大学祭企画 「平和を考える—平和をつくりだすために—」展示 「読プロの活動紹介」展示
ワークショップ	11月5日(土)～11月6日(日)	附属図書館本館 2階閲覧席 (緑園キャンパス)	大学祭企画 ・Myしお리를作っちゃおう！
朗読会	11月5日(土)	附属図書館本館 教員・院生閲覧室 (緑園キャンパス)	大学祭企画 朗読チームによる朗読発表 【朗読】: 読書運動プロジェクト朗読チーム 坂本紫緒里・湯浅友里・鈴木珠友・阿部美彩・山田優香・小野紘子・平山真由子・神田玲奈・武田真奈・穂積優香 【演目】 「野ばら」小川未明、「やまなし」宮沢賢治、『夢十夜』より「第一夜」 「第三夜」夏目漱石、「野ばらの帽子」安房直子、「尾生の信」芥川龍之介 【演出・指導】鈴木千秋先生(本学朗読講師)
第2回読書会	12月15日(木)	附属図書館本館 読プロミーティング ルーム (緑園キャンパス)	【テーマ】: 最近読んだおすすめの本 【紹介された本】 『ドキュメント死刑囚』篠田博之著 『最後の秘境東京藝大』二宮敦人著 『物語ること、生きること』上橋菜穂子著 『ツバキ文具店』小川糸著 『夜明けの図書館』(コミック) 埜納タオ著
読み聞かせレッスン(後期)	10月14日、21日、28日 11月11日、18日、25日 12月2日、9日、23日 全て金曜日	附属図書館本館 グループ学習室② (緑園キャンパス)	読み聞かせに適した絵本の選び方から、手遊び歌・わらべ歌、読み聞かせの実践までを専門家に学ぶ。 【講師】 永井雅子(本学非常勤講師)

イベント名	開催日	開催場所	内容
第2回朗読会 「いまの自分に、できる こと。 ～寄り添って歩こう～ 」	2月12日(日)	神奈川近代文学館 ホール	朗読チームによる朗読発表 【朗読】: 読書運動プロジェクト朗読チーム、OG朗読グループ「すずの音」 阿部果鈴・阿部美彩・小野紘子・神田玲奈・坂本紫緒里・鈴木珠友・平山真由子・穂積優香・山田優香・湯浅友里(本学学生) 石塚千紘・石渡詩乃美・岡田奈々実・瀬戸口文嘉・出井奏・中島友紀・中村容子・水井真奈美(OG朗読グループ「すずの音」) 【演目】: 朗読チーム 「ゼロ弾きのゴーシュ」宮沢賢治 「ねこはしる」工藤直子 すずの音 「チヨ子」宮部みゆき 「記念日」重松清 【演出・指導】: 鈴木千秋先生(本学朗読講師)
読み聞かせ実習(後期)	2月14日(火)	緑園東小学校	読み聞かせレッスンの成果を、近隣小学校の朝読書の時間で披露する。

■コンクール

タイトル	応募内容	応募資格	応募期間	結果
第9回POPコンテスト	図書館の蔵書に自作POPを作成し、紹介する。	フェリス生	4月20日(水)～5月27日(金)	<p>【応募資格】学生 院生 科目等履修生 【応募期間】4月20日(水)～5月29日(金) 【応募数】23作品 【展示期間】6月15日(水)～10月31日(月) 【展示場所】緑園図書館2階展示コーナー 【選考結果(*上位入賞者のみ記載)】</p> <p>大賞(ベストPOP賞) 『さがしもの』(角田光代 著) 中村 好花 (英語英米文学科 1年)</p> <p>本の世界観にぴったりで賞(入賞) 『月の船でゆく』(長野まゆみ 著) 菊地 杏樹 (コミュニケーション学科 1年)</p> <p>デザインにひきこまれるで賞(入賞) 『回転ドアは、順番に』(穂村弘・東直子 共著) 仲尾 円点 (音楽芸術学科 1年)</p> <p>とにかく絵がかわいいで賞(入賞) 『フランス人は10着しか服を持たない』(ジェニファー・L・スコット 著) 茂木 梨央奈 (英語英米文学科 1年)</p> <p>他、応募賞19作品</p>
第12回創作コンクール	<p>【募集ジャンル】: ①詩 ②戯曲 ③小説</p> <p>上位入賞作品は製本し、附属図書館の蔵書として保存。</p>	フェリス生	5月25日(水)～10月12日(水)	<p>【応募資格】学生 院生 科目等履修生 【応募期間】5月25日(水)～10月12日(水) 【応募数】19作品[詩(11)・戯曲(1)小説(7)] 【結果発表・授賞式】2017年1月18日(水) 【選考結果(*上位入賞者のみ記載)】</p> <p>■詩部門 第2席 「同一時間の異空間と異時間の同一空間」 P.N. 涼風 弦音 (日本語日本文学科 2年) 第3席 「手」 P.N. 桜 夏姫 (日本文学科 4年) 第3席 「桔梗」 P.N. 青梅 杏 (日本語日本文学科 1年)</p> <p>■戯曲部門 入賞なし</p> <p>■小説部門 第1席 「紅き姫は純白の闇に溶ける」 P.N. 宙(そら) (日本語日本文学科 3年) 第1席 「冬に眠る」 下地 香名芽 (日本語日本文学科 1年)</p> <p>他、応募賞14作品</p>

■関連科目

科目名	講義題目	履修年次	担当者	形態	単位	内容(主題・目標等)
今年の一冊(13) (A Book for This Year)	さまざまな視点で平和と環境を考える	1234	コーディネーター: 藤本 朝巳先生	講義	前期	<p>[複数教員によるコラボレート授業]</p> <p>この授業では、専門分野の異なる各担当者が、独自の視点や方法で、国内外の「平和」と「環境」について語ります。今年度は以下の聖書の言葉を、テーマの基盤とします。 創世記1章31節 神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。 マタイによる福音書5章9節 平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。</p>
読書とメディア(8) (Reading and the Media)	編集視点から俯瞰し、理解するメディアとコンテンツ	1234	森 亨先生	講義	後期	<p>編集する視点から俯瞰し、理解するメディアとコンテンツ。あなたの人生を”編集”してみよう。</p> <p>みなさんは、人類の歴史上、もっともテキストを読み、テキストを書き、写真を撮り、写真を見て、動画を撮り、動画を見ている人類だ。というのも現代は、LINE、Facebook、Twitter、ブログなど誰もが種々のメディアを持つことができる時代だからだ。作家でなくてもテキストを書き、写真家でなくても写真を撮り、映画監督でなくても動画を撮影し、それらをシェアできる。そして、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、本などのメディアを内包するものとしてウェブがあり、それらで毎日テキストを読み、写真を目にする。</p> <p>各ソーシャルメディアにポストするとき、LINEで友達にメッセージを送るとき、ブログを書くとき、レポートを書くとき、みなさんはどの写真を使うか、どんな言葉遣いでどんな文章を書くか、どんなデザインにするかを考えている。つまり、これは編集をしていることにほかならない。</p> <p>情報を収集し、まとめ、アウトプットするというスキルは、かつてはマスメディアに属する人のための、ないしはメディアを志望する人の特別なものであった。しかし、その編集力は、今、現代人の誰もが必要な能力になったといえる。</p> <p>本講義においては、この編集力を学び、そして活かす術を身に付ける。広義の編集力・編集視点は、学校生活での卒業論文、就活のエントリーシート、社会人生活での企画書など、どの場面においても現代人にとって必須の能力である。そして、これらを身に付けることで、コミュニケーションを多面的に考察する力と、メディアリテラシーを身に付けてもらいたい。</p> <p>さらに、人と人、メディアと人、人とモノ……情報のやりとりが生じる現象はすべてコミュニケーションと捉えることができる。コミュニケーションを担う媒体こそがすなわちメディアである。よって、この講義はメディアというものを学ぶための総合的な知識とリテラシーを身に付けることで、人間力を高めることを目的とする。そのためにコミュニケーションやメディアの特性の違い、読むということ、書くということを歴史と理論と、そして講師の20年弱にわたる雑誌編集者およびPR、ブランディング会社経営の経験による実践をベースに学んでいく。</p>

◆ はじめに ◆

フェリス女学院大学附属図書館 館長 藤本朝巳

現代の大学図書館は、通常の図書館業務以外のさまざまな機能も果たすことが期待されています。フェリスの図書館も期待に応えるべく取り組んでおり、2014年度末に設備を一新したAVコーナーは学生に頻繁に利用されています。また、ラーニングコモンズの機能を持つグループ学習室も授業、課外活動などによく活用されており、図書館は多目的学習の場へと変わりつつあります。朝日新聞出版発行の『大学ランキング』でも図書館は毎年高い評価を受けています。一方で昨年11月の大学祭では、学生はもとより近隣の方にも多数ご来場いただき、図書館の入館者は2日間で1,500人を超えました。また夏の女子高校生への図書館開放には述べ108名の利用があり、地域貢献の役割も果たしています。

図書館は、2002年度から「読書運動プロジェクト（読プロ）」に活発に取り組み、毎年、豊かな実りを結んでいます。この活動では、学生たちが主体的にテーマを決め、それに沿って数回の読書会を開くだけでなく、関連図書資料の展示、文学ゆかりの地訪問、選書ツアーなど、ユニークな企画を立てて実践しています。

今年の読プロのテーマは「平和を考える」でした。前期読書運動科目「今年の一冊」では図書館長が中心となって、6名の教員と共に、原発被災地の環境問題（全村避難の飯館村の環境再生の取り組みから）から国際的な人権問題（国境を越えて移動する人々の権利、国際人権と子どもの権利問題の現実）にいたるまで、さまざまな視点で「平和」と「環境」について学びました。さらに関連資料（平和・環境を考える作品・ドラマなど）の展示活動も重ねました。

また、毎年行っている朗読、再開した「読み聞かせ」では、近隣の小学校など地域への貢献も積極的に実施いたしました。一方、後期読書運動科目「読書とメディア」では、今年も森亨先生のご指導のもと、「編集視点から俯瞰し、理解するメディアとコンテンツ」と題して、メディアの総合的な知識とリテラシーを実践ベースで学びました。学生にとって必須の文書作成とコミュニケーションを多面的に考察する力、メディアリテラシーなどを身に付ける良い機会となりました。

読プロは上記以外にも、神奈川近代文学館での朗読発表会、また大学祭では朗読会、しおりの製作体験（184名参加）など多彩な活動を行いました。また、今年の嬉しい成果は創作コンクール（小説・詩・戯曲）に19作もの優秀な作品の応募があり、小説部門では2作品が第1席に輝き、そのうちの1本がめでたく全学的なコンテストであるフェリス文芸大賞を受賞いたしました。

一方で図書館には学修支援のさらなる充実など大きな課題があり、社会の変化に対応できるよう努力しております。また、増え続ける図書の設置空間も確保しなければなりません。皆様のさらなるご理解、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 読書会 ◆

第1回	5月12日(木)	【テーマ】 私のオススメ本
第2回	12月15日(木)	【テーマ】 最近読んだおすすめの本

◇ 第1回読書会 ◇

報告 英語英米文学科1年 中村好花



ポスター作成: 読プロメンバー

新入生の私が読書運動プロジェクトの一員になってから約一か月、最初のイベントである読書会が5月に開催されました。今回の読書会ではテーマは特に設定せず、他の人に読んでもらいたい自分のお気に入りの本を持ち寄り、その本への想いを語りました。

今回の読書会で紹介された本は『レインツリーの国』、『風の中のマリア』、『鬼が笑う』、『強運の持ち主』、の4冊でした。私は初めて参加したので、上手く紹介できるか少し不安だったのですが、読書会はとてもアットホームな雰囲気です、楽しくお互いのおすすめの本を紹介しあうことができました。メンバー

1人1人が持ち寄った本はテーマも内容も様々でしたが、自分が普段読んでいない本に触れることのできる機会となったので、良かったと思います。

また『レインツリーの国』が紹介された際、著者の有川浩さんや、その映画の話に盛り上がり、一冊の本から話題が広がる楽しさも感じました。

今回読書会に参加してみて、私は今まで自分の好きな作家さんやジャンルの本を読むことが多かったため、これからは新しいジャンルの本にも挑戦してみよう、と改めて思いました。また、自分の好きな本を他の人に紹介することで、その本の魅力を自分の中で再発見することもできたので、本を読むことがもっと好きになりました。

今度は、ふだん読まないジャンルにも挑戦したいです!



ドキドキの読書会でしたが楽しかったです!

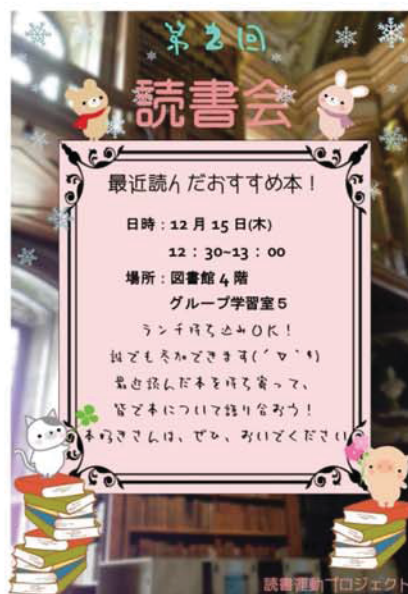
◇ 第2回読書会 ◇

報告 日本語日本文学科2年 小根山桃子

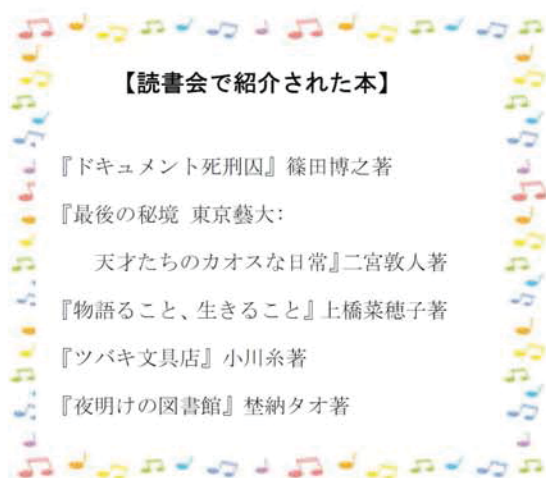
第2回読書会では、「最近読んだおすすめの本」をテーマに開催しました。参加したのは読プロメンバーと図書館職員の方々であったので、一般学生の方にも来てもらえるよう、今後工夫が必要かと思いました。

面白いことに、メンバーが紹介した本は随筆やエッセイ集といった種類で、珍しく小説がありませんでした。次回の読書会活動で、「おすすめ本」ではなく細かくジャンルを区切っても面白い読書会になると思います。

また、職員さんが紹介してくださったのは図書館内にある本で、司書の仕事をテーマにした漫画本であり、フェリスの図書館にもこういう本もあるのだなあと、フェリスの学生の皆さんに紹介したい本がたくさんあることを確認しました。



ポスター作成：読プロメンバー



第2回読書会

◇ 創作コンクール ◇



ポスター作成：図書館

今年度の創作コンクールには詩部門 11 作品・戯曲部門 1 作品・小説部門 7 作品の全 19 作品と、前回の 16 作品を上回る応募が寄せられました。厳正な審査の結果、詩部門では日本語日本文学科 2 年のペンネーム「涼風弦音 (すずかぜつるね)」さんの「同一時間の異空間と異時間の同一空間」が他の作品を抑え、第 2 席を獲得しました。さらに、日本文学科 4 年のペンネーム「桜 夏姫」さんの「手」と、日本語日本文学科 1 年ペンネーム「青梅 杏」さんの「桔梗 (ききょう)」がそれぞれ第 3 席に選ばれました。

戯曲部門からは残念ながら受賞作が出ませんでしたが、小説部門はレベルが高く、2 作品が第 1 席に選ばれました。その一人、日本語日本文学科 1 年の下地香名芽さんの「冬に眠る」は高校生の初々し

いラブストーリーで、2 人の関係を自然な筆致で表現した点が高く評価されました。また、第 1 席を獲得したもう一人の日本語日本文学科 3 年ペンネーム「宙 (そら)」さんの「紅き姫は純白の闇に溶ける」は、本格的かつ壮大なファンタジー小説で読者を圧倒しました。第一席に選ばれた 2 作品は全学的なコンテストである「フェリス文芸大賞」にも推薦され、「紅き姫は純白の闇に溶ける」がみごと大賞に輝き、学長から賞状と楯を授与されました。

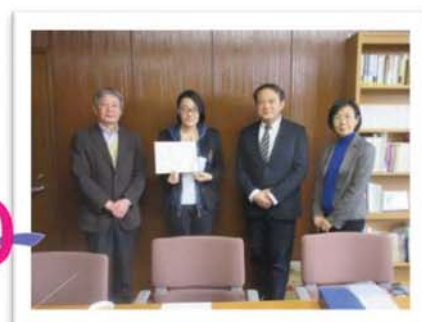
創作コンクールで第 2 席以上を受賞した作品は製本し、ご本人に贈呈するとともに図書館の蔵書として末永く保存されます。



過去の作品集



創作コンクール授賞式



文芸大賞授賞式



◆ 展示 ◆

展示名	開催期間	内容
平和を考える～ 平和をつくりだすために	4月1日(金)～3月31日(金)	年間テーマ関連 図書・絵本・DVD・CDなどの資料65点 (他に聖書1点と聖書が元になった映画4点を展示)
POP コンテスト作品展示	6月15日(水)～10月31日(月)	POP コンテストに応募された23作品および図書の展示
選書ツアーに行ってきました！～今フェリス生が一番読みたい本	9月21日(水)～12月22日(木)	8月に行った選書ツアーで購入した図書95点の展示
読プロ活動紹介 「私たちの活動を紹介します」	11月5日(土)～11月18日(金)	過去の活動報告書、創作コンクール作品集、大学祭ワークショップのブックカバー見本を展示

◇ テーマ展示 平和を考える～平和をつくりだすために ◇



年間テーマポスター



テーマ展示 「平和を考える～平和をつくりだすために」



◇ POP コンテスト作品展示 ◇



◇ 選書ツアーに行ってきました！～今フェリス生が一番読みたい本 展示 ◇



◇ 読プロ活動紹介「私たちの活動を紹介します」展示 ◇



◇ 展示 ◇

報告 図書館 秋葉祐子

今年度の読プロ年間テーマは、「平和を考える～平和をつくりだすために」です。

「平和」という言葉を聞くと、同時に「戦争」というイメージも抱きやすいですが、多くの学生に抵抗感を抱かせず、自分たちにとって、世界にとっての平和について考えてもらうきっかけとなるように、展示する図書のジャンルを「憲法」「戦争」「環境問題」「災害」の大きく4つに分け、色々な角度から考えられる様に図書を選びました。

「憲法」では、日本国憲法9条を中心に、日本や世界の憲法、安全保障関連などを選び、「戦争」のジャンルでは、『アンネの日記』『きけわだつみのこえ：日本戦没学生の手記』などの手記をはじめ、井伏鱒二、大岡昇平、山崎豊子などの戦争を題材にした小説の作品を中心に、映画化されたDVDと共に展示をしました。紛争地域などで国際平和のため活躍されている女性の図書も加え、緒方貞子氏やマララ・ユスフザイ氏などの図書は貸出しも多かったです。



憲法関連の図書



環境問題コーナー

「環境問題」のジャンルでは、東日本大震災の記録や写真集、備えるための防災BOOK、原発問題、復興問題関連を中心に、「災害」では温暖化、ゴミ問題、環境に関する仕事、の図書を中心に選びました。

年間テーマの展示では、関連する映画のDVDなどの視聴利用も多く、手に取りやすい絵本や写真集、図説付きの図書を展示したのも効果的だったと思います。手に取った本をきっかけに、学生それぞれが平和をつくりだすといことはどういうことか、今の自分にできることについて考える機会になってくれたら嬉しいです。





かわいらしいイラストもたくさんありました！

後期には、毎年夏休みに行われている、学生達が大型書店を訪れて図書館に入れたい本を選ぶ、「選書ツアー」の展示を行いました。丸善丸の内本店で、読プロメンバー5人が95冊を選び、各自がPOPを作成し一緒に展示しました。選書もジャンルが偏ることなく、現代作家の小説・エッセイを中心に、ハリー・ポッターの新作の洋書版や国内外の建築物・風景の写真集、料理本、観光ガイドブック、自己啓発系と多岐にわたりました。利用者と同世代の学生が選書したことと、POP 効果もあり、常に貸出状態の人気の本も多く、展示コーナーがガラガラという好評な展示となりました。

前期に毎年行われる「POP コンテスト」の展示では、今年も力作が揃い、昨年より4作品多い23作品ものPOPと図書を展示することができました。タイトルの文字にインパクトがあったり、色彩豊かな絵で勝負したり、どれも個性的で目をひくPOPのため、足を止めてPOPと本を交互にみる利用者を多く見かけ、貸出回数も伸びました。自分では気づきにくい、図書館に所蔵している本を知る機会の場の一つなので、ぜひこれからも続けていきたい展示です。



読プロ活動紹介「私たちの活動を紹介します」の展示では、大学祭で紹介した読プロの活動を引き続き展示することで、学内の学生により活動内容を知ってもらい、学生メンバーを増やしたいという思いから行いました。毎年発行している活動報告書や、昨年まで大学祭のワークショップで行い好評だったブックカバーの見本を眺めている学生もいたので、来年度ぜひメンバーが増えることを期待したいです。



◆ コラボランチ ◆

◇ We are the world ～平和を願うプレート～ ◇

報告 国際交流学科3年 有馬梨咲

読書運動プロジェクト×FLC/ 学生専属メニュー第14弾

We are the World

～平和を願うプレート～

■メニュー■
 ①トルティーヤ(スペイン)
 ②チキンのトマト煮
 ③生春巻き(ベトナム)
 ④ヨーグルトサラダ(オセアニア)
 ⑤アロスコンボヨ(中南米)
 ⑥ココナッツムース

450円

■期間■時間■
 7/11(月)～7/15(金)
 11:30～14:00

読書運動プロジェクトが紹介する平和に関する本

- 「わたしはマララ:教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女」マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム著 池上彰著
- 「世界を変えた10人の女性:お茶の水女子大学特別講義」池上彰著
- 「世界から戦争がなくならない本当の理由:戦後70年の教訓」池上彰著
- 「わたしにできること:個人の力がかしたい!」から始まった12の絆の物語」滝澤若枝著
- 「いま地球がたいへん!」O&A60国立環境研究所編

Twitter @FLC_DI
 各社入れの都合上、メニュー内容が異なる場合があります。

ポスター作成: FLC

読書運動プロジェクトは今年も FLC とコラボをしました。提供日は7月でしたが、準備は5月から行い、綿密な打ち合わせをしました。今年のテーマが「平和を考える～平和をつくりだすために」なので、内容は世界各国の料理になりました。メインに南アメリカのアロスコンボヨというご飯を選び、おかずに生春巻きやチキンのトマト煮などとても豪華なものになりました。

6月には試食会を行いました。今回試食会は初参加だったので楽しみにしていました。ここでは生春巻きの中身の葉はどうするか、それにかけるタレなどを決めました。それぞれに量があったのでそれだけでお腹がいっぱいになりました。

最終的に決定したメニュー名は「We are the world ～平和を願うプレート～」になりました。盛りだくさんにも関わらずとても安かったのですさすが学食!となりました。当日もおいしくいただきました。次のコラボはどうなるか楽しみです。



読プロメンバー作成のPOPも飾り宣伝



とっても美味しいです!

◆ 選書ツアー ◆

報告 日本語日本文学科2年 小根山桃子

8月29日に選書ツアーがありました。選ばれた本も小説から絵本など、様々であり、内容も一つに固まらず良い本を選ぶことができましたと思います。選書時間も程よく、本の内容を確認しつつ一定の冊数を確保するにはちょうど良い時間配分だったと思います。今回、初めての参加でしたが、図書館の本を自分で選ぶという行為はあまり経験する機会は少ないのでとても興味深かったです。



探している本は
どこの場所にある
かな、、、



この本いい
かも！！



私たちが選びました！学
生さんにたくさん読んで欲
しいです♡



今回のツアー場所は、
「丸善 丸の内本店」でした。
「今フェリス生が読みたい本」をコン
セプトに、学生メンバー5名が95冊
を選書しました。

◆ 文学散歩 ◆

◇ 葉祥明美術館 企画展示「くまモンとブルービーのなかまたち」絵本原画展◇

◇ 鎌倉文学館 常設展「鎌倉ゆかりの文学」・特別展「たかどのほうこの世界」◇

報告 英語英米文学科1年 中村好花

夏真っ盛りの8月3日、毎年夏休みに行っている読プロのイベント、文学散歩に参加させていただきました。今回は葉祥明美術館と鎌倉文学館を見学するため、私たちは鎌倉を訪れました。8月にしては涼しく、とても心地よい気候の中、多くの有名な文学者のゆかりの地である鎌倉を散策しました。

はじめに訪れたのは、北鎌倉駅のすぐ近くにある葉祥明美術館です。緑に囲まれたおしゃれな洋館で、まるで絵本に入り込んだような美しい雰囲気建物でした。葉祥明さんは熊本出身の絵本作家・画家・詩人で、絵本を通して地雷問題を訴えていらっしゃいます。柔らかく、優しいタッチで描かれた作品を見ていると、不思議と心が落ち着く感じがしました。博物館の中では自由に葉祥明さんの描かれた絵本を読むことができ、またミュージアムショップでは気に入った本やポストカードを購入したりしました。

次に訪れたのは、鎌倉文学館です。今回は常設展の「鎌倉ゆかりの文学」と共に、特別展示の「たかどのほうこの世界」を見学させていただきました。絵本作家として有名なたかどのほうこさんの代表作、『まあちゃんのながいかみ』をはじめ、数々の貴重な原画などを見ることができました。

そのほかにも、メンバーで一緒にご飯を食べたり、鎌倉駅近くの小町通りでお土産を買ったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。鎌倉の文学の雰囲気に触れつつ、学年をこえて読プロメンバーの中を深めることができたので、今回参加することができて本当に良かったです。



美味しいぜんざいで一休み♪



鎌倉文学館 庭園にて

◆ 大学祭 ◆

展示	11月5日(土) ～11月6日(日)	大学祭企画 年間テーマに関する展示 「読プロの活動紹介」展示
ワークショップ	11月5日(土) ～11月6日(日)	大学祭企画 「My しおりを作っちゃおう！」
朗読会	11月5日(土)	朗読会の項 (p. 19～20) 参照



ポスター・チラシ作成：図書館



◇ 大学祭の展示 ◇

報告 図書館 秋葉祐子

大学祭では、読プロの今年度のテーマ「平和を考える～平和をつくりだすために」に関連したものを、メンバー達が模造紙に書き展示しました。それぞれのテーマは、「戦争とスパイ」「トルストイ」「ジブリ作品」でした。

「戦争とスパイ」では、第2次世界大戦中の日本と世界のスパイを取り上げ、各国がどのような機関を作り、諜報活動をしていたかを紹介。日本編では、スパイ養成学校として作られた陸軍中野学校での訓練内容や卒業生の活動を含め、この学校がモデルになった現代小説、柳広司著『ジョーカー・ゲーム』を紹介しました。「トルストイ」では、ロシアの文豪トルストイの人生を、トルストイがクリミア戦争に将校として従軍した経験を交えながら解説。代表作品の『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』などを紹介しました。



「ジブリ作品」では、戦争を扱っている「風立ちぬ」「火垂るの墓」などのジブリの映画作品から平和を考え、原作の文学作品を紹介する内容でした。メンバーそれぞれが、各自のテーマにそってイラストを交えて解説し、元になった作品の本や関連する本と一緒に紹介することで、展示を見てくださった人が平和について考えたり、関連する本に関心を持ってもらえる様に工夫していました。

又、テーマ展示の他に、過去のPOPコンテストの応募作品や、選書ツアーで展示したPOPを紹介したり、読プロの活動の中でも特に人気の「文学散歩」や「選書ツアー」なども写真つきで展示し、活動内容を紹介しました。

今年の大学祭の展示では、例年展示の発表の中に盛り込んでいたクイズを行わなかったのですが、楽しみにしていた小学生なども多く、お問い合わせを何件か受けました。スタッフの人員も必要なので、来年度は学生メンバーを増やし開催できるか検討していきたいと思います。



◇ ワークショップ しおり作り ◇

報告 国際交流学科3年 有馬梨咲



しおりに貼るシールを真剣に選んでいます

今年の大学祭のワークショップは例年のブックカバーではなく、しおり作りになりました。今回使用したのは紅茶のパック型のしおりと、メンバーが色々な形に切り抜いたしおりの台紙に絵やシールを貼ってもらうという内容です。大学祭当日ワークショップの時間は限られていましたが、例年通り多くの方が来ましたが、2日間で「この2種類どちらかを選んでください」とたくさん声をかけました。

小さい子は率先してメンバーが型を作った方のしおりを選んでいて、親子連れのお母さんや小学生は紅茶のパック型を手にとっているという印象を受けました。パック型はとても人気でした。かわいいと皆さんが言っていました。メンバーが切り抜いた台紙はもう少し選びやすい形が必要だと思いました。初めての試みでしたがうまくいきました。皆さん喜んでいるように見えました。とても楽しかったです。また私が説明しているときに空いている席を確認してくれた他メンバーがとても心強かったです。



イラストを描いたり、シールを貼ったり♪



ティーパック型しおり完成版



メンバーお手製のしおり台紙

◆ 読み聞かせレッスン ◆

報告 図書館 森園佳子



昨年度後期にトライアルで開講した 5 回のレッスンが好評だったため、今年度は前期 8 回、後期 10 回と本格的な実施に至りました。

講師には、昨年度も来ていただいた読み聞かせや手遊びの指導者である菊地彰子先生を前期にお迎えし、後期には本学の非常勤講師で児童英語教育の専門家である永井雅子先生にご指導いただきました。

レッスンでは、読み聞かせの重要性などの教育的な内容から、絵本の持ち方、選書の仕方など実践の基礎を学べます。そしてせっかく読み聞かせを学ぶなら、ぜひその練習成果を実践してみたいということで、レッスン区切りの 9 月と 2 月に、近隣の緑園東小学校の朝読書の時間に訪問させていただき、児童を前に読み聞かせ実習を行いました。



前期のようす

小学校には学生がそれぞれのお気に入りの絵本を持参し、各教室に分かれて読み聞かせを行いました。どのクラスの児童もとても楽しんでくれたようすで、校長先生始め、司書教諭の先生、学校司書の方にも大変感謝されました。図書館に戻ってからの振り返りの場では、「鏡の前での練習が役に立った」「読む絵本をすでに知っている子がいるかいないかで読み方が変わってくると思った」「一人で練習しているときには分からなかったが、読み聞かせは読み手と聞き手が一体となって完成するものだということを実感した」等の感想が述べられ、目の前で真剣な眼差しを向けてくる子どもたち

に向けて読み聞かせをすることの難しさや楽しさを味わい、大きな実りとなったようです。



小学校での読み聞かせ

◆ 小学校朗読会 ◆

9月15日(木)	演目：「サリーさんの手」安房直子 「しあわせってなあに？」葉祥明 「よだかの星」宮沢賢治
----------	--

◇ 小学校朗読発表会 ◇

報告 日本語日本文学科3年 阿部果鈴

9月15日、緑園東小学校にて安房直子氏の著作「サリーさんの手」をグループ朗読いたしました。小学生を対象とした体育館での朗読で、小学生のみなさんは現役生とOGの発表を合わせて45分間真剣に聞いてくださり、非常に感謝しています。私は「サリーさんの手」のグループにいたのですが、今回の朗読会では、広く開けた空間である体育館では今の発声では声が予想以上に届かないということを実感しました。また、「サリーさんの



「サリーさんの手」を朗読中！

手」は社会人になったばかりの若い女性が、不思議な体験を通して自分の仕事にやりがいと意義を見出すという内容ですが、小学生の、特に男の子にとっては少々感情移入しにく



OGの「すずの音」も参加

いものだったのかもしれませんが。しかし、私も、対象と遠い存在にある登場人物の世界を、対象に近づけられるような朗読がまだできていなかったということです。最後の発表であったOGの朗読グループ「すずの音(ね)」による「よだかの星」の朗読では、小学生の皆さんの集中力はすさまじいもので、物語が体育館全体の空気を掌握していました。今回の発表を機に、発声、滑舌の強化とより物語に感情移入した朗読がこれからの目標であると強く感じました。

◇ 小学校朗読発表 ◇

報告 コミュニケーション学科2年 山田優香

私は今年から朗読チームに参加したので、小学校での朗読会がお客様の前で発表する初めての朗読でした。そのため、私が読ませていただいた「サリーさんの手」という作品にもとても思い入れがあります。何度も本を読み込み、ひとつひとつの言葉をどう読んでい

けば聞き手に届く朗読になるのかを考える作業は、とても楽しく、良い経験になりました。「サリーさんの手」の練習中に鈴木先生がおっしゃっていた「なくてもいい言葉が置いてあるのには意味がある」という言葉は、私の中でとても印象に残っています。形容詞などの修飾語は、そこ置かれていなくても文章としては成立するけれど、そこに置かれているということは作者が伝えたいことがその言葉にあるはずなんだ、ということを考えるようになってから、他の本を読むのもより面白くなりました。小学校での朗読会当日は、小学生の子供たちが一生懸命私たちの朗読に耳を傾けてくれているのがとても嬉しかったです。今後もより多くのお客様を楽しませ、もっと聞きたいと思ってもらえるような朗読ができるよう、たくさん本を読み練習を頑張りたいと思いました。



小学生のみんな、面白かったかな？

◇ 小学校朗読発表について ◇

報告 日本語日本文学科1年 穂積優香

9月15日に近隣の小学校で朗読発表を行いました。このイベントは私が朗読チームに所属して最初の発表でした。私は皆より遅くこのチームに入ったので、最初は不安が大きかったです。ですが、学年を超えて、メンバーの方々と一緒になって作品を作ることで、朗読を通して、仲良くなることができましたと思います。当日までは、先生のご指導の下、週に一度の貴重な時間に集中して練習をおこないました。少ない時間の中で朗読を上達させていくために、家での自主練習も日頃から心がけていました。時には、電車でボソボソ覚えている文を言ってしまうときも…。発表当日、練習をしてきたのはいいものの何より心配だったのが、小学生が朗読を聞いてくれるか、ということでした。けれども、朗読チームと同じくらい真剣にこの会を楽しみにしてくれていて、本番も一生懸命にお話を聞いてくれている子ども達の姿をみて、私の方が感動させられました。発表終了後には皆で成長したと実感できて嬉しかったのを覚えています。そのとき私はこの会の成功は、私たちだけ



小学校での朗読会、楽しかったです！

ではなく、今まで何度も朗読でつなげてきた“つながり”のおかげだと感じました。まだまだ短い期間ですがこのチームに入って何度も足を運んでくれる先輩方をみて、それを実感しました。これからまたこの経験を生かして、もっともっと朗読をしていきたいです。

◆ 朗読会 ◆

第1回	11月5日(土)	<p>大学祭朗読会</p> <p>演目：「野ばら」小川未明 「やまなし」宮沢賢治 『夢十夜』より「第一夜」「第三夜」夏目漱石 「野ばらの帽子」安房直子 「尾生の信」芥川龍之介</p>
第2回	2月12日(日)	<p>文学館朗読会</p> <p>テーマ：「いまの自分に、できること。 ～寄り添って歩こう～」</p> <p>演目：朗読チーム「セロ弾きのゴーシュ」宮沢賢治 「ねこはしる」工藤直子 すずの音 「チヨ子」宮部みゆき 「記念日」重松清</p>

◇ 大学祭朗読会の感想 ◇

報告 英語英米文学科1年 武田真奈

私は、今年度最初で最後の人前で発表させていただく機会が大学祭での朗読会でした。他のメンバーが既に発表経験を積む中で不安もありましたが、鈴木千秋先生の熱心なご指導、メンバーの練習に臨む姿勢、職員の方々の陰ながらのサポートに、私も朗読チームの一員として成功させたい！とやる気が出てきたのを感じました。本番当日は家族や友人はもちろん、多くの方々に私たちの朗読を伝えることができました。



ポスター作成：図書館

4年生の先輩方の朗読は大学祭で初めて聴きましたが、長い物語のはずなのにその長さを聞き手に全く感じさせず、その場面の情景が鮮やかに目の前に広がっていくようでした。物語に引き込み魅了させるという朗読を肌で感じ、先輩方や指導してくださる先生の偉大さを改めて知ると共に、私もゆくゆくはこんな読み手になりたいと強く思いました。

実は、朗読チームに参加して本格的に指

導をいただくまで、私は“朗読”と“音読”の違いがよく分かっていませんでした。お恥ずかしい話ではありますが、どちらもただ声に出して、聞き取りやすいように読むだけだと思っていたのです。しかし、自分の声にのせて物語を読むことで、ただ文章を黙読したり音読をするよりも、さらに深みのある物語の意味を、自分の想いも交えて共有出来ることが朗読の良さだと気づかされました。今回の大学祭での朗読会は、普段から何気なく話している時も、朗読をするときの様に大切に相手に伝えていきたいと思える良いきっかけになりました。



◇ 大学祭朗読会 ◇

報告 音楽芸術学科2年 鈴木珠友



今年の朗読会は多くのお客様に来て頂けた事が印象に残っています。昨年と比べて今年はメンバーが増えた分、お客様の人数だけでなく朗読作品に関しても含め、内容の濃い会になったと思います。

私が特に今年らしさが出たと感じたのは、各作品を複数人で朗読した事です。私も昨年とは違いペアで読みました。また、作品が初めて勉強した「夢十夜第三夜」だった為、今まで1人三役で読んでいたのに対し、2人での掛け合いとなり、自身の今までの読み方や表現の仕方は相手と異なっていた事に気がつき、苦戦と新鮮な気持ちを感じていました。その中で2人で一つの作品を完成させる為の重要点は、2人で共通の作品理解をする事だと学びました。私は練習で必ず担当以外の文章も読んで内容と雰囲気をしっかり頭に入れてから声に出していました。その中で私自身が課題とし工夫した点は、声のトーンです。「第三夜」は暗く怖い内容なので、低音、音量、声色を変える為に注意しました。そして、本番が近づくとお互い確認をする事で、より良い作品にしていこうと意識を高めました。その様な今までにない経験ができたからこそ、本番でうまくできていたか不安でしたが、反省会で先生やOGの方々が「普段と違った雰囲気の作品だったけれど、しっかりと染まっていた」と嬉しいお言葉を頂け、自分の朗読に自身が持てる様になりました。昨年と比べて成長を実感する事ができて本当に良かったです。それは、先生や図書館の方々、OGの皆さん、そしてメンバーが増え活気づいた朗読チームの仲間のおかげです。今後も皆さんと楽しく頑張り続けていきたいと思えた大学祭朗読会でした。



◇ 神奈川近代文学館での朗読会 ◇

報告 日本語日本文学科1年 小野紘子

2年ぶりの外部舞台でした。小学・高校と演劇をしていたのでなにかと朗読と比較してしまうのですが、セリフや地の文を読むことも勿論だけれど、舞台に関しても異なる点があって新鮮でした。演劇では自分の出るシーンが終わったら舞台袖にはけますが、朗読では一作品が終わるまで舞台を去ることが出来ません。加えて私は最初と最後のパートだったので、より緊張とプレッシャーを感じました。



「セロ弾きのゴーシュ」での主な私の担当パートは、冒頭で楽長のセリフと、そのすぐあとの猫の場面のナレーションでした。読むキャラクターが直後に変わるため、声の高さや、「セリフから地の文」への意識の切り替えが難しかったです。地の文は「人の感情」を込めすぎず、しかし読んでいるのはやはり人間である」ので登場人物の動きや感情に合わせて過剰になり過ぎずに、そして読む部分が続くため一本調子にならないように調節する点が特に苦労しました。

先輩・卒業生の皆さんの朗読は読み方もそうですが、声が喉からではなくお腹から出ているということが分かる出し方で、私もそのような発声出来るよう目指したいと思います。大学祭の時よりも多くのお客様が聴きにきてくださって、朗読チームの存在をより知ってもらえ、かつ成功させることができて本当に良かったです。

フェリス女学院大学 読書運動プロジェクト

いまの自分に、
できること。
寄り添って歩こう

宮沢賢治 「セロ弾きのゴーシュ」
工藤直子 「ねこはしる」
宮部みゆき 「チヨ子」
重松清 「記念日」

入場無料 予約不要

朗読会
2017 2.12^日
14:00-16:30 | 開場 13:30
神奈川近代文学館ホール

〒221-8502 神奈川県横浜市青葉区青葉台1-1-1
TEL: 045-812-6999
FAX: 045-812-6998

ポスター作成：図書館



◇ 神奈川近代文学館朗読会 ◇

報告 日本文学科4年 坂本紫緒里

2月12日に神奈川近代文学館で、朗読チームOGである「すずの音」の先輩方と合同で朗読会を行いました。この朗読会が、私たち4年生にとっての卒業公演となりました。朗読会当日は快晴ということもあり、100名を越えるお客様に足を運んでいただきました。

毎年この朗読会で感じることは、「聞いてくださる方のいることのありがたさ」です。私たちの朗読を真剣な表情で聞いてくださったり、時には涙を流していただけた際には、この活動を続けていて良かったなと思います。



今回の朗読会は「いまの自分に、できること。～寄り添って歩こう～」をテーマに、OGの先輩方の作品を合わせ4つの物語を朗読させていただきました。主人公が、様々な動物たちとの関わりの中で成長する物語。

【宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」】弱く小さな存在が、友達と時の流れによって変わっていく物語。【工藤直子「ねこはしる」】子供の頃大切にしていたモノを、大人になって思い出す物語。【宮部みゆき「チヨ子」】大切な

日、そして人への支援の在り方を考えさせられる物語。【重松清「記念日」】全ての作品を通し、自分は今、卒業を前に何ができるのかを考えさせられた公演になりました。

自分が努力していることが結果として、希望しているものにならない時が人生にはたくさんあると思います。勉強や仕事、人間関係…自分が良しとしてやった行動が評価されないことは辛いことです。しかし、今回読ませていただいた作品を通し、大切なことに気づきました。たとえ、今の自分の現状が、間違いや失敗、落ち込み・停滞でも、それは無駄ではなく、必ず未来の自分に繋がっているということ。そしてそうやって前に進むことは、決して一人では、できなかつたり、気づかなかつたりするものであること。



「いまの自分に、できること」…卒業を前に私自身、やらなくてはならないことへの焦りや、社会に出ていく不安から、大切なものを見失いそうになるときがあります。しかし、人と寄り添うことの中で、自分は生かされていることを忘れずに、少しずつでいいから進んでいきたいと思います。

もし、今自分のすべきことに悩んでいる人がいたら、今回私たちが出会えた作品にヒントをもらってみてはどうでしょうか？きっと読んだ後には、少し前向きな自分に出会えるはずです。

◆ プロフィール（学生メンバー） ◆

氏名（学科・学年）

- ① 今年の読書の活動で一番印象に残ったものとその理由
- ② 今年読んだ本でイチオシの作品
- ③ 一番好きな映画のワンシーン（洋画・邦画問わず）
- ④ 今ハマっていること・もの
- ⑤ これからやってみたいこと、または読んでみたい本



M. I.（国際交流学科4年）

- ① 文学散歩
地元、鎌倉で行ったことのない場所などに行くことができ、とっても楽しかったです。より鎌倉のことが好きになりました。
- ② 『海賊とよばれた男』百田尚樹
- ③ 「マイ・インターン」
（冒頭）主人公がビデオを収録しているシーン
- ④ ミュージカル、旅番組
- ⑤ 近所を散歩して、景色や花の写真を撮りたいです。



有馬梨咲（国際交流学科 3年）

- ① 大学祭のしおり作りです。
説明する課程でいろんな人と触れ合えました。
- ② 『ドキュメント死刑囚』篠田博之
ものすごく重かったけど読みごたえがありました。
- ③ 「怒り」の宮崎あおいちゃんが大声で泣くシーン
- ④ 歴史の偉人がたくさん出てきて戦う某スマホゲーム
- ⑤ ④をきっかけに購入した『ギルガメシュ叙事詩』と『アーサー王物語』をこれから読む予定です。

小根山桃子（日本語日本文学科 2年）

- ① 第2回読書会
一番最近にやった活動であるということと、単純に、メンバーの本の傾向がエッセイだったことに驚きました。
- ② 『最後の秘境 東京藝大 -天才たちのカオスな日常-』二宮敦人
- ③ 「魔女の宅急便」のキキの旅立つシーン
- ④ 小説の創作活動
- ⑤ 万葉集や古事記を無理しない程度に読みたいです。



中村好花（英語英米文学科 1年）

① 選書ツアー

図書館で購入する本を自分で選ぶということで、とてもワクワクしながら本を選びました。時間があっという間に過ぎてしまったように感じたのが印象的です。

②『世界から猫が消えたなら』川村元気

映画化で話題になりましたが、非常にいろいろなことを考えさせられるお話でした。思わずくすくす笑ってしまうようなシーンから、切ないシーンもあって、何度も読み返してしまいました。

③「風立ちぬ」のラストシーンで、菜穂子さんが二郎さんに「生きて」と告げるシーン。

その直後、エンドロールで流れる主題歌の「ひこうき雲」がなんとも涙腺を刺激します…！

④ 最近は夜、星を見るのが好きです。

あまりたくさんは見えませんが、冬の間は空気が澄んでいるので、いつもより綺麗に見える気がします。

⑤ 時間がある時に美術館巡りをしてみたいです。



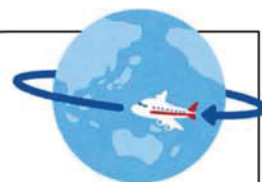
和気あいあい、楽しいです！いつでも見学に来てください♡



選書ツアーで大きな書店にも行けますよ！

◆ プロフィール（朗読チーム） ◆

坂本紫緒里（日本文学科 4年）



①2月の文学館朗読会

卒業公演となり、4年間の集大成として臨めたため。

②『しあわせの向こう側』よしもとばなな

何気ない生活の中に幸せがあること、自分にとっての幸せとは何なのかを考え、気づかせてくれるお話です。

③「プラダを着た悪魔」のエンディングシーン

二人の女性の仕事に対する考え方や、周りの人間関係が良く描かれている作品で、これから就職活動や社会人になる学生さんにぴったりの映画です。

④ドラマや映画、本を読むこと。

知識を蓄えることはもちろん、モチベーションを上げたいとき、ゆっくりしたいときなど、気分に合わせて時間を使うようにしています。

⑤旅行

先日、イタリアに卒業旅行に行ってきました。スペイン広場では『ローマの休日』のマネを友だちとして盛り上がりました。これから社会人になっても、仕事の息抜きに、国内外たくさんの場所に行きたいと思っています。

阿部果鈴（日本語日本文学科 3年）

①小学校の朗読発表会 次の目標ができたため

②『関ヶ原』司馬遼太郎

③「スクリーム」主人公が犯人に逆転する場面

④ドラマ「勇者ヨシヒコ」シリーズ

⑤『白頭の人』富樫倫太郎

『治部の礎』吉川永青





鈴木珠友（音楽芸術学科 2年）

- ① 緑園東小学校での「サリーさんの手」
初めは怖いお話かと思い題名にインパクトを受けたから。一番長く練習をしたため。
- ② 『奇跡の夢ノート』石黒由紀子
- ③ 「プラダを着た悪魔」の「相手が何を求めているか先を見越して自分のための決断ができる人になりなさい」というセリフ
- ④ メイク
- ⑤ ディズニープリンセス映画の主題歌

山田優香（コミュニケーション学科 2年）

- ① 神奈川近代文学館での朗読会
- ② 『虐殺器官』伊藤計劃
- ③ 「トワイライト」で、エドワードがベラに「ライオンが羊に恋をした」と言う場面
- ④ 美味しいチョコレート屋さん巡り
- ⑤ 『夜は短し歩けよ乙女』森見登美彦
『ナラタージュ』島本理生



小野紘子（日本語日本文学科 1年）



①大学祭での「夢十夜」

演劇部だったのでセリフを読むことにはあまり苦労しなかったけれど、地の文にはとても苦戦しました。

②読みかけて投げ出した本を読み切る宣言として、デュマの『巖窟王』。

③「Home Alone」シリーズ。泥棒が立て続けに罠にかかるところ。

④一人暮らしが落ち着いてきたので、料理のバリエーションを増やしています。

⑤今年度は新しい環境に慣れることに余裕がなかったので、来年は落ち着いて本を読みたいです。

武田真奈（英語英米文学科 1年）



①大学祭での「野ばら」

短めの物語だが、その中で平和の尊さと戦争の虚しさを伝えてくれるから。

②『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』七月隆文

③「舞妓はレディ」で主人公が晴れて本物の舞妓になるシーン

④自分の部屋をハワイアンテイストにアレンジすること

⑤「ハリー・ポッター」シリーズを、原作でも日本語版でも読み通すこと

穂積優香（日本語日本文学科 1年）



①練習。先生や皆のおかげで成長したから。

②『氷菓』米澤穂信

③「コクリコ坂から」のラストシーン

④野球観戦によく行きます。

⑤歴史が好きなので歴史本を読みたいです。

◆ プロフィール（読プロキャラクター・リプロ） ◆

どうぞ
よろしく!



図書館に、たく
さん来てね！
待ってます♪



リプロ

イヌ科 男子
誕生日 2012年1月24日
身長 34.6cm (フェリスブックス2冊分)
体重 730g (フェリスブックス5冊分)
趣味 読書 フックカバー作り
好きな食べもの カステラ
家族構成 父、母、妹



◆ おわりに ◆

図書館 森園佳子

読プロが活動を始めたのは 2002 年。過去、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」に採択され多額の補助金を受けたころは、著名な作家の講演会を開いたり、音楽学部とのコラボでコンサートを開催したりしたと、当時の担当職員から読プロ黄金時代の話をついたび聞かされました。そして現在、発足からかれこれ 15 年が経とうとしています。今のメンバーは発足当初のことはもちろん、その後の華々しい時代も全く知らない学生ばかりですが、彼女たちは司書の私も嬉しくなってしまうほど嬉々として本と接し、作品について語り合い、物語を味わっています。そんな姿を目にするたびに、大々的なイベントはできなくてもなんとか工夫して、読書に興味を持つ学生を増やしていきたいという気持ちが沸々と湧いてきます。

「読書はあまりしたことがないし、本は買うと高いし、図書館で借りても持ち歩くのは重いから」という理由で本から遠ざかっている若い人もいるかもしれません。しかし、今やスマートフォンを持っていない大学生はいないでしょう。私個人としては紙の本にこだわりがありますが、機械で読書することに抵抗がない人はスマホやタブレットで読めばよいわけですから、まずは電車の中で SNS の画面を開く代わりに、「今日は無料の読書アプリで何か読んでみようか」と思い立ってもらえるようなきっかけ作りが重要なのです。読プロが作り上げてきた伝統は大事にしつつも、学生のニーズや時代の変化に合わせてそのアプローチの方法や内容を臨機応変にアレンジし、一人でも多くのフェリス生に「本っていいものだな」と思ってもらえるような活動がしていけたら嬉しいことです。

今年度も多くの方々のご支援をいただき、一年間を終えることができました。支えてくださった皆さま、ありがとうございました。今後とも読書運動プロジェクトと活動に携わる学生へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

「読書運動プロジェクト（読プロ）」とは？

「本が好き」「図書館が好き」な学生が集まって、教職員と一緒に活動している公認団体です。「学生メンバー」の活動は週一回のお昼休み。図書館でランチミーティングを行っています。毎年テーマを決めて読書会や本の展示を行うほか、選書ツアーや文学散歩に出かけたり、他の団体と協力して学食のメニューを考案することもあります。大学祭では展示発表やワークショップを主催します。

朗読の専門家から直々に指導を受けられる「朗読チーム」は、大学祭や文学館など、学内外で発表の機会があります。近隣の小学校からの依頼で全校生徒に朗読を披露することも。

また「読み聞かせレッスン」では、本の選び方から手遊び歌なども教わることができます。

もちろん、すべての活動に参加してOK！

いずれも大学のプロジェクトなので部費等の活動費はかかりません♪



年間テーマに合わせたもの以外にも、図書館に入れる本をメンバーが自分たちで選ぶ選書ツアーで購入した本を並べるなど、年に数回の展示を行っています♪

朗読チームは毎年、神奈川近代文学館で一般のお客様を前に朗読会を開催し、大好評です♥



同じ本についてそれぞれ感想を話したり、お勧めの本を紹介し合う読書会では友達も増えますよ～☆

フェリス女学院大学附属図書館読書運動プロジェクト 2016 年度活動報告書

発行日 2017年3月31日

編集 フェリス女学院大学附属図書館読書運動プロジェクト

〒245-8651 神奈川県横浜市泉区緑園 4-5-3

TEL : 045-812-6999 E-mail : library@ferris.ac.jp